

熱傷(やけど)

家の中にはやけどを起こす原因がたくさんあります。やけどをした部分が「広い」ほど、「深い」ほど危険です。

子供は体の表面積の10~15%以上の広さをやけどすると重症です。

<手当>

- ・急いで冷たい水、水道水を注いで痛みが取れるまで冷やします。
- ・衣類を脱がさないで、そのまま衣類の上から冷水をかけます。
- ・水ぶくれはつぶさないで、消毒した布か洗濯した布で覆い、その上から冷やします。



※熱傷範囲が広い場合、広範囲を冷やし続けることは、体温をひどく下げる危険があるので、低体温に注意します。特に、こどもや高齢者には注意が必要です。
※軟膏、油、消毒薬などはぬりません。(ぬると感染を起こしたり、医師の診療の妨げになります。)

※広範囲の熱傷や顔・手など熱傷の部位によっては特殊な治療が必要となり、そのような場合は119番通報し、専門の医療が可能な医療機関へ搬送する必要があります。

